①スクラップの時間に用意するもの

スクラップに用意しておきたいものは以下のものです。家庭にもお知らせして、いつでも使えるように道具袋などに入れておくとよいでしょう。また、家庭でも取り組めるように、もう１セットあるとなおよいと思います。

・はさみ、カッター

スクラップするのに「はさみ」は必需品です。カッターでも構いませんが、低学年の場合はまず、はさみで取り組む方がよいと思います。低学年で記事のスクラップを始めると、記事を切り取るのがなかなかうまくいかない児童が多くいることに気が付きます。もしかしたら、手先を器用にして、道具を上手に使えるようになる効果もあるかもしれません。

・のり（スティックのり）

記事を切り取ったら、ノートやワークシートに貼り付けます。その際に私はスティックのりを使うことを勧めています。教室で通常使用している液体のりですと、のりがはみ出したりして、ノートのページとページがくっついてしまうことがあったり、のりをつけたところには、書き込みができなくなってしまうことがあるからです。スティックのりですと、つけやすく手も汚れずに済みます。その他テープタイプののりなど、いろいろな文房具が出ていますので、児童の実態に合わせて工夫してみてください。

・ラインマーカー

記事を読む（低学年は写真を見たり、写真のキャプションを読んだりする）際に、あとで要約をしたり、感想をまとめたりする活動を行うと思います。そこで記事の大切なところや、自分の印象に残ったところをチェックするために、ラインマーカーをそろえるとよいでしょう。ただ、児童に「大切なところに線を引きましょう」と言うとどんどん線を引いてしまい、どこが大切なのかわかりにくくなってしまいますので、３色ぐらいを用意して、記事で一番太切なところ（５W1H・前の方に書いてある）は赤、自分が心に残ったところは黄色、言葉など自分の作文などで使えそうなものを青、などのように色分けするとよいでしょう。ただし、低学年のうちは、１色で写真のキャプションや見出しのみにチェックをさせてもよいかもしれません。

・国語辞典、地図帳

通常は国語辞典の学習は小学校３年生からですが、最近は１年生から国語辞典を、もたせるようにしましょうという動きが出ています。中部大学現代教育学部・深谷圭助准教授が提唱され、今では全国に広まっています。辞典から知っている言葉をどんどん引き、付箋をつけていくことによって、言葉の力や学習意欲まで飛躍的に伸ばすことができることで注目を浴びています。私も学級で深谷先生のご指導をいただきながら、辞書引き学習を実践してい

ます。その辞書をいつでも使える位置に置き、新聞記事や写真をスクラップする際には、知らない言葉や調べてみたい言葉を調べるようにさせたいものです。

　また、低学年ではまだ難しいかもしれませんが、地図帳も近くに置いておきたいものです。新聞には日本全国、そして世界中の情報を掲載されます。掲載された地方・地域について、地図帳で位置を確認することで世界、日本への興味や認識が広がってきます。